



取組：新滋賀県モデル「CAN-DOリスト」の活用による児童生徒の英語力の向上と授業改善

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

本県においては、文部科学省が実施する「英語教育実施状況調査」の結果の中でも、「話すこと」及び「書くこと」両方のパフォーマンステストの実施状況に係り、中学校・高等学校とも課題がある。技能統合型の言語活動の充実を図り、「新滋賀県モデルCAN-DOリスト」を活用した「指導と評価の一体化」の取組を一層強化することにより、生徒の総合的な発信力の伸長を達成していく必要がある。

Plan

■取組計画

滋賀大学や大阪教育大学等の外部専門機関と連携し「CAN-DOリスト」を効果的に活用した指導と評価の一体化に課題を焦点化し、公開授業、授業研究会、教員のスキルアップ研修等を小・中・高が連携を取りながら、一体的に取り組む。

■体制

大学教授等の専門家を指導助言者に迎え、少人数の研究グループによるプロジェクト型実践研究を実施したり、指導主事等が研究指定校等を訪問し、授業改善に向けて直接指導助言を行ったりする。

Do

■英語発信力育成事業【小・中・高】

大学教授等を顧問に迎え、プロジェクト型研究に取り組む。

■英語インプルーブメントセミナー【小・中・高】

All Englishの集中語学研修により教員の英語運用能力の向上を図る。

■小学校英語パイオニア実践プロジェクト授業研究会【小】

小学校英語専科指導教員による、学習指導要領の趣旨を踏まえた質の高い外国語教育の実践とその普及を図る。

■教育課程実践検証協力校事業（国立教育政策研究所事業）【中】

教育課程調査官から指導助言をいただき、「言語活動を通じた指導」の実践とモデル授業の公開を行う。

■学習指導要領説明会（新教育課程研究協議会）【小・中・高】

新CSの趣旨を理解し、授業改善に向けたグループ協議等を実施する。

■授業づくりおよび授業力アップに係る研修【小・中・高】

滋賀県総合教育センターと連携し、授業力・指導力アップを目指す。

■外国語指導助手の指導力等向上研修【小・中・高】

特別講演やワークショップとを通じて、JET-ALTとJTLが協働して指導力の向上を図る。

■「新滋賀県モデルCAN-DOリスト」

普及リーフレットの改訂【小・中・高】

県内のすべての小・中・高等学校で「指導と評価の一体化」による外国語教育の充実を図る。



Check

■「CAN-DOリスト」の達成状況を把握している

[高等学校] R1 : 41.2%→R3 : 25.0% [中学校] R1 : 20.2%→R3 : 57.1%

■授業における言語活動時間が50%以上である

[高等学校] R1 : 41.4%→R3 : 39.2% [中学校] R1 : 77.1%→R3 : 58.6%

■「話すこと」及び「書くこと」両方のパフォーマンステストを実施している

[高等学校] R1 : 21.4%→R3 : 22.3% [中学校] R1 : 81.5%→R3 : 85.4%

Action

■成果

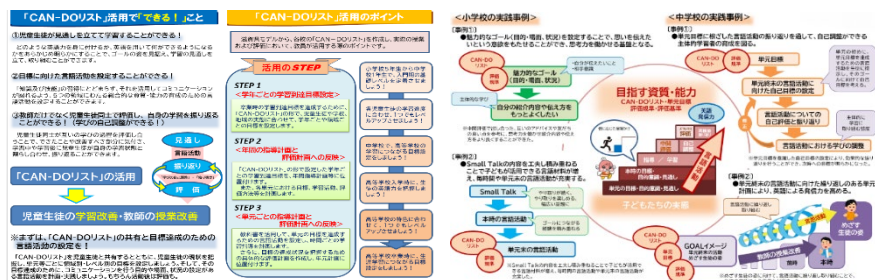
「CAN-DOリスト」における学習到達目標を指導案等に位置づけ、それに向けた言語活動の設定やパフォーマンステストの実施について、各種事業における多くの実践を通して広く周知できた。

■課題

学習到達目標－単元目標－評価規準－指導／学習－パフォーマンス評価がなっていない学校が多い。

■改善案

優良実践事例を学校間で共有し、「指導と評価の一体化」を図るための滋賀スタンダードを構築する。



成果の普及

■「読み解く力」授業づくり関連情報（滋賀県総合教育センター）

<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1606442352025/index.html>
研究論文、研修動画、授業づくりリーフレット、公開授業レポートなど、解く力に関する情報等にアクセスできます。

